

## UVSORシンポジウム2024

報告：極端紫外光研究施設 荒木 暢

2024年11月5日、6日の2日間の平日に、通常フォーマットのUVSORシンポジウムを現地（岡崎コンファレンスセンター）とオンライン（Zoom）のハイブリッド形式で開催しました。

2025年春の停止期間を延長して行われるブースターシンクロトロン改修の件など施設からの報告に続いて、招待講演3件（黒田氏：広島大、黒澤氏：東北大、高西氏：京都府医大）、口頭講演6件、ポスター36件が発表され、UVSOR利用者懇談会より優秀学生発表賞が隅琢磨（山形大）、橋本恵里（青山学院大）、秋山亮介（東京科学大）の3名に授与されました。また、SLS2.0に向けたアップグレード中で短期滞在中のWatts氏（PSI/SLS）に、特別講演としてSTXMとアップグレード計画についてお話いただきました。

参加者、発表は以下の通りで、例年比で、学生の現地参加者が増えた点は評価でき、今後も平日の開催を基本とするのがワークライフバランスの面でも正しい方向性ではないかと考えます。11/5：現地83名（内学生36名）、オンライン11名、11/6：現地78名（内学生32名）、オンライン12名

前日には半日、初の試みとしてUVSOR

懇談会からの提案により、UVSOR若手研究会が開かれました。参加者の自己紹介、3名の若手の研究発表、各1件の招待・企画講演（横山氏：JASRI、藤原氏：東京大）、意見交換が行われ、その後、懇親会が開かれました。分野横断の放射光を利用している若手同士の横のつながりを深められたと思います。人材育成は施設及びコミュニティにとって最重要課題といえます。若手にとっては生の情報（実験のノウハウから、将来を考えるための経験談など）を得られる大切な機会となったのではないかと考えます。招待・企画講演では、キャリアパスに関する話もいただき、アンケートからも関心の高さが見受けられました。若手自身のオーガナイズで行われ、懇談会・施設側がサポートにあたりました。今後も、このような若手のイベントを積極的に応援していきたいと思えます（参加者30名（B4:2, M:13, D:4, 助教ポスドク:8, シニア:3））。

放射光施設では年一回のユーザーミーティングが行われており、1) 施設報告、2) 施設の将来計画・方向性を議論する場、3) UVSORを利用した研究の紹介といった目的があると思えます。



UVSORは小型施設の機動性・柔軟性を活かした新しい放射光技術の開発といったユニークな成果を上げてきましたが、今後、さらに挑戦的な、岡崎から世界へ発信できるサイエンスを生み出すためには、コミュニティからより多くの意見を取り入れていく必要があると考えます。今年度は別開催としました次期施設検討会以外にも、サイエンス主導のワーキンググループを結成して議論を行い、その内容をシンポジウム場で披露し討論するの一案かと思えます。

最後に、シンポジウムの開催の準備から終わりまでご協力いただいた皆様、大変ありがとうございました。今年の開催責任者としてお礼を申し上げます。

学生を含めた若手がいっぱい活気のあるユーザーミーティング、またそれがUVSORのカラーとなればと願って報告とさせていただきます。

## 第一回UVSOR若手の会開催報告

報告：大阪大学 中村 拓人、分子研 極端紫外光研究施設 萩原 健太

UVSORユーザーの最新の成果の発表および、ユーザー間の交流を目的にUVSORシンポジウムが毎年開催されています。それに先立ち、UVSORを利用する若手研究者を対象とした表題の研究を11月4日に岡崎コンファ

レンスセンターにて開催いたしました。2名の学部生と16名の大学院生を含む30名ほどの参加がありました。本研究会は、2023年度のUVSORシンポジウムにあわせて開催された利用者懇談会総会において、若手、特に学生

間の交流機会の創出に関する意見が多く出され、それに応える形で初の試みとして実現しました。若手の会は学会に関連したものは行われていますが、日本に数多くある放射光施設において、若手ユーザーが中心となって開